

ガバナー月信 Vol. 1

7 | 2017
July



国際ロータリー 第 2560 地区 2017-2018 年度三役



Contents



ロータリー：
変化をもたらす

ガバナーメッセージ	1
直前ガバナーからのメッセージ	2
地区幹事挨拶	3
地区財務委員挨拶	4
ガバナー補佐挨拶	5
地区委員長挨拶	7
会員数及び出席報告	19
ハイライトよねやま	20
ロータリー文庫通信	22

2017-2018年度

国際ロータリー第 2560 地区

ガバナー 新保 清久

〒951-8053
新潟市中央区川端町 6-53 ホテルオークラ新潟1F
新保ガバナー事務所
TEL/025-222-2561 FAX/025-222-2565
E-mail/k.shinbo@rid2560niigata.jp



就任挨拶

国際ロータリー第 2560 地区
2017-2018 年度 ガバナー
新保 清久（新潟万代RC）

国際ロータリー2560 地区 2017-2018 年度ガバナーに就任のご挨拶を申し上げます。

平成 27 年 10 月の地区大会でガバナーノミネーとして承認されて以来、山本パストガバナー、田中直前ガバナー始め、多くの皆様から多岐にわたりご指導、ご鞭撻をいただきまして本日に至ることが出来ました。

身に余る重職ではありますが、ガバナー補佐、地区役員、クラブ会長のご協力、ご支援を賜りながら一所懸命努めてまいる所存です。

どうか宜しくお願い申し上げます。

今年度の地区目標は、「クラブと地区で変革を起こそう」であります。

イアンH.S.ライズリーR I 会長の「ロータリー：変化をもたらす」というテーマの下、多様な会員の増強と中長期の戦略計画の策定、IT化の推進を奨励して地区並びにクラブの活性化を目指します。

そのために地区組織を見直し、会員増強委員会、戦略計画推進委員会の新設、広報・公共イメージ向上委員会を強化してクラブの支援に取り組んで参ります。

また今年度から、ガバナー事務所の運営は、地区事務所とガバナー事務所に分離して活動することになります。

さらにイアンH.S.ライズリーR I 会長の国際協議会での提言を受けて、年度内に会員数分の植樹を予定しています。

シカゴロータリークラブが 1905 年 2 月 23 日に誕生して以来、ロータリーは、112 年の歴史の中で、会員と地域社会の変わりゆくニーズに対応しながら成熟、発展をしてきました。

約 35,000 クラブ、120 万人の会員を擁する世界有数の奉仕団体となったにもかかわらず、国際ロータリーは、「時代に追いつき、時代に適合して、将来の準備をする」ために 2016 年度の規定審議会で、クラブ運営に大幅な柔軟性を認めました。

私達は、ロータリーが大きく変わる時期に直面しております。

私達が抱いてきたロータリー観とある意味変わりつつあるロータリーについて大いに皆様と意見交換したいと思っております。

最後になりますが、地区目標、数値目標の達成にご協力の程お願い申し上げますとともに各クラブのご発展と会員各位のご健勝を祈念してご挨拶とさせていただきます。



新保年度へのメッセージ

国際ロータリー第 2560 地区
2017-2018 年度 直前ガバナー
田中 政春（長岡西 R C）

山本和則パストガバナーからのバトンを新保清久ガバナーに何とか引き渡すことができました。地区の皆様、特に、新保清久ガバナー、川瀬康裕ガバナーエレクト、パストガバナー、および、前年度のガバナー補佐、クラブ会長様はじめ地区役員の皆様のご支援の賜物であります。諮問委員の皆様はじめ関係各位に深甚なる感謝とお礼を申し上げます。

新保年度は、すでに、クラブ会長エレクト研修セミナー、地区研修・協議会が終了し円滑にスタートしました。懸案の地区事務所の固定化が試みられる年度で、何かと変化に富んだ運営が予想されます。引き続き新保ガバナーとそのスタッフ一同へ盛大な声援と絶大なご協力をお願い致します。

2016年4月の規定審議会では会員資格、月2回以上であれば例会開催回数が、クラブの裁量に委ねられることになりました。柔軟性が付与されましたが、ロータリーの目的、中核的価値観の「親睦、高潔性、多様性、奉仕、リーダーシップ」は変更されません。社会への適応に気を取られ、ロータリーの本質を忘れることはあってはならないと私は考えています。

これらの改正は、ポール・ハリスの「ロータリーがしかるべき運命を切り開くには、常に進化し、時には革命的にならなければなりません」という言葉や、「ロータリーは時代について行かねばならない」、「時代に適応しなければならぬ」、「将来への備えができていなければならない」という理事会決定から出発しています。

会員の増強等を目的として、クラブに柔軟性が付与されました。従って、会員の増強目標を100名とされたことは英断です。実現を期待します。

新保年度の RI 会長テーマは「ロータリー：変化をもたらす」で、地区目標は「クラブと地区の変革をめざそう」です。この目的を達成するため各クラブまたは会員は「持てる者が持たない者に施す」ということではなく、「人類に奉仕するロータリー」の精神に配慮した奉仕に精励され、それぞれが自慢できる特異性を確立することを期待します。



新保年度スタートにあたり

国際ロータリー第 2560 地区
地区幹事
丹治 芳子（新潟万代RC）

「クラブと地区の変革をめざそう」

国際ロータリー、日本のロータリーそして一つ一つのクラブにとって今年の変革の年です。その認識を持って地区運営を進めて参りたいと思います。112年の歴史を持つロータリーは大きく変貌を遂げてきました。

変えてはいけないもの、変えなければならないもの。その真摯なせめぎ合いの中でロータリアンは色々と考え、行動し、新しいロータリーを模索してきました。ロータリーの現状を考える時、分子生物学者の福岡伸一氏の「動的平衡」という考え方に非常に興味があります。分子生物学的な本来の意味は正直、文系人間としては十分に理解しがたいのですが、「動的平衡」とは外見上静的に見えるが、実際は動的状態にある。正反応と逆反応の速度が同じ場合に動的平衡となる。互いに逆向きの過程が同じ速度で進行することにより、全体として時間は変化せず平衡に達している状態という理論は非常に興味深いものがあります。すなわち、ロータリーは112年間その理念を一貫して守り続けてきましたが、実際の運用・活動に於いては激しいぶつかり合いがあると言う事です。

その緊張関係の上に今のロータリーがある事を認識し、変革の歩みを止めてはなりません。あくまで、その原点はしっかりと保持し、中核的価値観は変えることなく「奉仕の理想」を追求する奉仕活動を主体とした国際奉仕団体であるとの認識を忘れることなく、一方では新しい時代の大きなうねりに乗り遅れないように地区の舵取りを行っていくつもりです。

新保年度の地区運営は大きく変わります。かねてから懸案であった地区事務所固定化構想が新保年度からスタートし、川瀬年度で実行されます。

暫くは試行錯誤の時期が続きますが、新保年度と川瀬年度がしっかりと連携を取り合い、着実に実行に移して参りたいと考えています。

また、会計規則も新保年度からきちんと整備され、地区財政運営の指針として運用されることとなりました。不要な支出を抑え、一方、本当に必要で有意義と思われる部門に財政的支出を心掛けるつもりです。

PETS、地区協も皆様方のご協力により無事終わり、実感としては半分くらいの任務が終わったかなと思っておりますが、本来の新保年度は7月からスタートです。56クラブへの公式訪問、社会奉仕委員会の植樹事業、10月28・29日の地区大会が控えております。気を緩めることなく頑張る所存ですが、ロータリアンの皆様方のご協力・ご支援を切にお願い申し上げます。



地区財務運用方針について

－理念の充足と実務の効率－

国際ロータリー第 2560 地区
地区財務委員
伊藤 秀夫（新潟万代RC）

一般に団体の財務というものは、団体の運営の中でもお金に関わる部分を取り扱うので、実務的な効率性が追求されます。他方で、人様が出されたお金を費消することから、その拠出目的に照らした理念との整合性を忘れることも許されません。特にロータリーのような奉仕団体にあっては、投資や投機等の見返りを求めてのものではなく、奉仕に資するという無償の出捐であるだけに、財務規律のたがを緩めないようにする配慮の必要性はより大きいといえます。

理念の充足と実務の効率の要請は、一見すれば二律背反のようにも見えます。理念を貫徹すれば実務が窮屈になり、実務を優先すれば理念がないがしろになりかねないというように。しかし、単年度で5000万円以上、これに繰越金累積額を単純に付加すれば1億円を超えてしまう予算規模の地区財務において、このアンビバレンスの解決が「とっても大変だから」といって放置するわけにはいきません。まして、ロータリーの活動を通じて少しでも大きな、そしてより実質的な社会貢献を果たそうと奉仕の理想を追求するためには、地区の叡智を結集して事に当たらなければならないと思います。

地区会計規則の整備は、財務規律という理念を標榜しつつ、それに従うことで財務の実務的効率も同時に実現することをめざしたもので、幸いにして5月の地区研修・協議会の第1セッションで満場一致の承諾をいただきました。ただし、これだけではまだ十分ではありません。

引き続き、次の段階として、私を含めて将来の財務委員が安心して依拠できる財務マニュアルの整備に取り組みたいと考えています。そこでは危機管理を念頭に置きつつ資金利用の効率化を図り、また、地区内の会員やRIへの情報公開、それを基盤とした民主的意思決定手続の実現をめざすこととし、地区会計規則と財務マニュアルをもって、地区財務運営のための両輪とすることができればありがたいと思っております。

歴代のガバナーや地区幹事・財務委員（会計長）がご苦勞されて運営し、連綿と築き上げてきた地区の伝統のタスキをつなぐために、微力ではありますが尽くしていきたいと存じますので、さらなるご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

国際ロータリー 第2560地区

2017～18年度
ガバナー補佐ご紹介



第1分区ガバナー補佐

大平 力 (中条胎内RC)

第1分区ガバナー補佐を務めます、中条胎内ロータリークラブの大平です。
新保ガバナーの方針を伝え、9クラブが楽しく活気あふれる奉仕活動が出来る様に
補佐をしていきます。皆様のご協力をお願いいたします。

山栄建設(株)
代表取締役
(建設請負業)

ロータリー歴

1995年1月22日 入会
2008～2009年 クラブ会長

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー4回目
米山功労者 マルチプル2回目



第2分区ガバナー補佐

橋本 栄一郎 (新潟北RC)

第2分区ガバナー補佐を務めます、新潟北ロータリークラブの橋本です。
新保ガバナーを補佐し、9クラブの運営が効果的におこなわれますように努めます。
経験不足ですが、皆様のご協力をよろしくお願い致します。

(株)橋本食肉店
代表取締役
(食肉販売)

ロータリー歴

1991年4月 入会
2014～2015年度 会長
ベネファクター

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー
米山功労者マルチプル7回目



第3分区ガバナー補佐

原 寛 (新津RC)

この度、新保年度の第3分区ガバナー補佐の重責を担うこととなりました。浅学非才の身な
れど、新保年度の運営方針に示された「クラブと地区の変革をめざそう」のテーマのもとに、
微力ながら精一杯この責務を全うしてまいりたいと思います。

皆様のご協力をお願い申し上げます。

(株)ホテル美好
代表取締役社長
(ホテル)

ロータリー歴

2005年10月 新津RC 入会
2009～2010年 クラブ会長
2010～2011年 地区職業奉仕委員
2013～2014年 クラブ幹事

ポール・ハリス・フェロー
米山功労者 マルチプル6回目



第4分区ガバナー補佐

鈴木 武 (三条南RC)

第4分区ガバナー補佐を務めさせていただきます。

新保ガバナーと分区11クラブのパイプ役として「手を取り合って地域に根ざしたロータリー活動」のお手伝いをさせていただければと考えております。

各クラブの皆様の協力をよろしくお願いいたします。

㈱鈴木商店
代表取締役会長
(建築材料配布)

ロータリー歴

1974年7月	三条南RC 入会	2010~11年度	第4分区IM実行委員長
1980~81年度	クラブ幹事		マルチプル・ポール・ハリス・フェロー (PHF+2)
1996~97年度	クラブ会長		米山功労者マルチプル (第5回)
2008~09年度	地区副幹事		



第5分区ガバナー補佐

品田 道雄 (柏崎東RC)

第5分区ガバナー補佐を務めさせて頂く事となりました。

ロータリーの原点は職業奉仕にありと思っております。

新保年度の運営方針をベースに地区目標の達成に向けて7クラブの皆様の協力のもと努めさせて頂きます。

ご指導ご協力の程よろしくお願い致します。

品田通信電設㈱
代表取締役
(電気通信設備)

ロータリー歴

1989年10月2日	柏崎東RC 入会	2009~2010年	地区副幹事
1999~2000年	クラブ幹事	2010~2011年	地区クラブ奉仕・広報委員会・ クラブ活性化委員
2005~2006年	クラブ会長		米山功労者マルチプル2回目
	ポール・ハリス・フェロー		



第6分区ガバナー補佐

星野 輝征 (雪国魚沼RC)

第6分区6クラブのガバナー補佐を務めさせていただきます。「ロータリーを楽しく」を念頭に、新保ガバナーの方針を各クラブの実情に合わせて活動できるよう、分区内のクラブ交流を密にしたいと考えています。各クラブの皆様のご協力を宜しくお願い致します。

㈱ホテル坂戸城
代表取締役
(旅館業)

ロータリー歴

2002年7月1日	雪国魚沼ロータリークラブ 入会	2006~2007年	雪国魚沼ロータリークラブ 会長
2005~2006年	雪国魚沼ロータリークラブ 幹事	2014~2015年	雪国魚沼ロータリークラブ 会長



第7分区ガバナー補佐

藤巻 賢策 (糸魚川RC)

昨年暮れ、平成28年12月22日に糸魚川駅北大火災害で、田中ガバナーはじめ地区内の皆様には大変ご心配をお掛け致しました。

そうそうにロータリアンの皆様より、過分なるお見舞いを寄せて頂き紙面をお借りし深く御礼申し上げます。

この度新保ガバナー補佐を務める事となりました藤巻賢策と申します。

新保ガバナーの思い願いが一歩でも達成出来る様、分区内8クラブの皆さんと共に頑張りましょう。軽輩ではありますがご指導宜しくお願い致します。

(資)藤巻電業
会長
(電設資材販売)

ロータリー歴

1985年1月	糸魚川RC 入会	2008~2009年	地区クラブ活性化委員
1994~1995年	クラブ幹事	2009~2010年	クラブ幹事
2004~2005年	クラブ会長		





会員増強委員会

委員長・直前ガバナー

山本 和則（新潟南RC）

今、日本のロータリーは会員数の面でも重大な局面に立たされています。世界では200以上の国と地域に122万余人のロータリアンが約3万5千の何れかのクラブに属しています。そして凡そ530の地区に区分され、各地区にはRIの役員として地区ガバナーがいらっしゃいます。更に、それを34のゾーンに集約して、2ゾーンに1人の割合でRI理事が17人選出されています。

日本には、第1、第2、第3の3つのゾーンが割り振られており、私たちの2560地区は第1ゾーンに所属しています。RIでは、1ゾーン当たりの会員数の目安を3万5千人としています。3つのゾーンを維持するには、10万5千人の会員数となります。日本の直近の会員数は8万9千余人で有り、このままでは2019年に開催される次の規定審議会で、3ゾーンから2.5ゾーンに減らされる可能性が大きくなってきました。我が国のロータリアンの声を出来るだけ多くRIに届けるために、3つのゾーンは維持する必要があります。

着眼大局着手小局の考えを持って、各クラブの会長・幹事・会員増強委員長エレクトの皆様も、自クラブの活性化を図る最大の武器として、又会員基盤の拡大の上でも、大変重要な事ですので、是非ともご協力を賜りたくお願い申し上げます。

新保ガバナーエレクトは次年度の地区運営方針の一番に、クラブ基盤の強化を掲げられ、会員増強の目標を、前年度末比100名の純増とされました。約5パーセント純増というこの目標は、ここ数年の増強実績を鑑みた時に、非常に高いハードルであると認識しておりますが、誠に頼もしいことに、上越、中越、下越から強力で素晴らしい委員を輩出して戴きました。

新年度最初の事業と致しまして、7月29日(土)、ホテルオークラ新潟に於きまして「会員増強セミナー」を計画しています。講師は「第1、第2、第3ゾーン地域別会員増強計画プロジェクトリーダー」の水野 功 氏(東京飛火野RC)を予定しております。私の同期ガバナーで、2015-16年度ガバナー会議長です。出席して良かったと、言ってもらえるセミナーにしたいと思っております。大勢の参加をお待ちしておりますので、今からスケジュール調整をお願い致します。

広報・公共イメージ向上委員会など他の委員会とも連携を図り、この目標を達成すべく当委員会は全力を挙げ取り組んで参ります。一年間、ご協力を宜しくお願い申し上げます。



クラブ奉仕委員会

委員長

馬場 伸行 (新潟西RC)

地区組織表をご覧になってお分かりになりますように、2017-2018年度は従来の会員増強と国際大会参加促進という任務をそれぞれ独立・分離させ、新たにクラブ戦略計画推進委員会という小委員会を設け、「変化した」クラブ奉仕委員会となりました。

新保ガバナーエレクト年度では①地区内クラブ同士の親睦と、国際ロータリー戦略計画に基づき②クラブ戦略計画立案推進、③広報・公共イメージ向上という3つのテーマ推進を目指します。具体的には、下記にお示しするような活動になりますが、未知の領域でもあることから手探りの部分もありますので、RI 会長テーマの通り、良い「変化をもたらす」よう、地区会員皆様からのご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

①地区内クラブ同士の親睦・・・地区内クラブ同士の親睦活動にスポットライトをあて、最も指示を得た親睦活動にガバナー賞を設ける。

②クラブ戦略計画立案推進・・・クラブ会員満足度アンケートを作成・実施し、それを基に各クラブが独自の戦略計画を立案できるよう奨励し、情報提供に努める。

また、地区内の My Rotary アカウント登録率と、ロータリークラブ・セントラル利用率を向上させ、普及促進に努める。

③広報・公共イメージ向上・・・様々な方法を用いてロータリーのイメージとブランド認知を調和させる。

国際ロータリー戦略計画：3つの優先項目と中核的価値





職業奉仕委員会

委員長

山田 隆一（新潟RC）

本年度地区の運営方針は「クラブと地区の変革をめざそう」です。

ロータリーの職業奉仕の理念は1905年ポールハリスがシカゴでロータリークラブを創立した目的、綱領に「進歩的で尊敬すべき商取引の方法を推進する」と書かれた一文が原点となります。

当時のシカゴはアルカポネの横暴に代表されるように無秩序で無法な自由競争が横行し手段を選ばず儲けた者が成功者という企業活動、社会状況だったのです。そこで良心的なロータリアンが正しい企業倫理、職業奉仕の理念や信念を掲げロータリーの目的に取り上げられたのです。

それから100年以上経った現代、私達の身の回りの社会や会社の状況はいかがでしょうか…。方法や規模、形態は変わっても例えばブラック企業、企業内のパワハラセクハラ、過労死や残業問題と大企業だけでなく我々中小企業でもありうるのがこの企業倫理、職業奉仕の問題です。

地区の職業奉仕委員会としてはそんな身近な問題をクラブの職業奉仕委員会の活動のヒントになるよう会員皆様にロータリーの職業奉仕理念として意識頂けるような活動をしたいと思います。

具体的には地区研修や職業奉仕月間を利用して会員メンバーの会社での取り組みを成功例失敗例として紹介したり話し合ったり出来る場を無理せず手作りで設定したいと考えます。

皆様からのご指導や協力を貰う事もあろうかと思いますが一年間よろしく申し上げます。



社会奉仕委員会

委員長

保莉 玲子 (新潟東RC)

2017-18年度、イアンH. S. ライズリーRI会長テーマは「ロータリー：変化をもたらす」

ライズリー会長は「ロータリーとは何ですかという問いに、私たちは行動をもって答えます。奉仕を通じて変化をもたらすことによって」と答えられました。

ロータリークラブの社会奉仕活動は、各クラブを基盤として地域社会に根ざした活動でなければなりません。そしてその活動は地域とともに成長し、かかわった人々のところを変化させ、成長させてくれるものと信じています。

当年度では、具体的活動といたしまして、環境保全の植林活動に取り組みます。諸々検討中ですが、皆様からご意見を頂きながら進めて参ります。また、「地区補助金活用セミナー」と「障がい者の就職支援セミナー」を2018年2月24日に同日開催致します。

ご支援とご協力を宜しくお願いいたします。

事業計画

(1) 社会的弱者の就職支援

障がい者の雇用を進めることは、障害をもつ誰もが職業を通じ、誇りを持って生活を送ることができる「共生社会の実現」と、雇用の多様性につながります。

「できないこと」でなく、「できること」に目を向け、その人の能力を生かせる仕事、活躍の場を提供することは企業にとっても貴重な労働力の確保につながります。

新潟県では民間企業の障がい者実雇用率は1.85%と全国平均を下回っています。法定雇用率の達成企業数も約半分程度が現状です。

採用までのプロセスや職場定着のための工夫などを学び、障がい者雇用の向上や促進につながるプログラムに致します。

(2) 地区財団活動資金（地区補助金 DDF）の有効活用支援

過去の事例を具体的に紹介いたします。各クラブが活発な社会奉仕活動を進められるよう情報提供と補助金申請手続き等の支援をいたします。

(3) 環境保全のための植樹

国際協議会でイアンH. S. ライズリーRI会長エレクトが全世界で会員数分の120万本の植樹をするように提言されました。森林保全は、地盤の安定化、水資源の確保、防風、防砂といった大きな効果もあり、災害対策の支援にもつながることになるでしょう。

当2560地区の目標は、会員数が約2,100名ですので、植林2,100本になります。





国際奉仕委員会

委員長

長谷川 厚史（新潟南RC）

ロータリーの5大奉仕部門の中で国際奉仕は、ハードルが高い、縁遠い存在に思われているのではないかと思います。

しかし、私たちと同じ志を持つ仲間が200以上の国と地域に、33,000クラブ、120万人もの人たちが存在します。呼べば答える人たちが世界には沢山いる。どこよりも国際奉仕活動がし易い組織に私たちは属しています。

しかし、2560地区では、海外との友情を育む姉妹・友好クラブとの交流を持っているクラブはわずか3割です。また、実際に国際奉仕活動を行っているクラブは年に2、3のクラブでしかありません。

イアン H. S. ライズリーRI会長エレクトは「あなたは変化を起こす人になりたいですか、変化の犠牲者になりたいですか。いつも同じことをして安心していただきたいですか。安心できるところから出て、未来のニーズに合わせたことをしたいですか」とお話になりました。

誰かが声を上げることでクラブの歴史が変わります。私たちはそんな人たちを応援したいと思います。

以下、2017～2018年度、国際奉仕委員会の活動方針です。

1、海外の姉妹クラブ・友好クラブとの交流促進

海外のクラブとの交流によって、私たちは他国の人々の文化・考え方を知り、お互いを理解し尊重しあう機会に恵まれます。

現在姉妹クラブ・友好クラブをお持ちのクラブはますます交流を、また現在お持ちでないクラブは是非ご検討をお願いいたします。

2、グローバル補助金を使った海外での奉仕活動

姉妹クラブ・友好クラブの有無にかかわらずグローバル補助金を使って海外で奉仕活動をすることができます。

目に見える国際奉仕をクラブで実感でき、会員の意識変化をもたらします。

委員会ではグローバル補助金を使った国際奉仕プロジェクトを用意してサポートいたします。

3、国際奉仕フォーラムの開催

2017年8月26日（土）青少年交換委員会と連携して、国際奉仕の理解を深めるフォーラムを開催いたします。

4、トロント国際大会への参加促進

2018年6月23日～27日ロータリー国際大会がカナダ、トロントで開催されます。この機会に大勢で国際大会に参加しましょう。



青少年奉仕委員会

委員長

箕輪 光泰(新潟中央RC)

青少年奉仕委員会には、インターアクトクラブ、ローターアクト、ライラの3つの委員会があります。2560地区には56ものクラブがありますが、インターアクト、ローターアクトに参加していないクラブの青少年奉仕委員会は、どのような活動をしているのでしょうか。

新潟県には103の高等学校があります。各校ボランティア同好会があって一生懸命ボランティアをしている高校生たちがたくさんいます。各地域のロータリークラブは、学校と打ち合わせを行い、何とかインターアクトクラブを立ち上げて頂けないでしょうか。

ローターアクトは2560地区において11クラブしかありません。どの位のロータリークラブが、ロータリアンが、ローターアクトを理解し、活動に参加している事でしょうか。

必要とあれば、青少年奉仕委員会は、いくらでも貴クラブで卓話をさせていただきます。新しいローターアクトを立ち上げることが、全体的にローターアクターの会員増強につながると思います。

変化を求めようとする、大変なエネルギーが必要となります。青少年奉仕委員会は、いくらでも応援します。ライラ委員会もいろいろなアイデアを持って大会を開催します。

たくさんの若者に参加していただきたいと思います。

ロータリアンの皆様のご理解とご支援の程、よろしく願いいたします。



インターアクト委員会

委員長

長谷川 寿一 (新発田城南RC)

インターアクトクラブの活動目的とは、慈愛の心と奉仕の精神を修得させ国際人として世界に貢献し得る人材を育成する為、青少年に活動の機会を与えるということです。

第2560地区では先ず、自分の住む地域のことをあらためて考えて貰い、身近な人々と支え合い、助け合うことの大切さを学んで欲しいとの思いで「地域と暮らす、そして守る」をテーマにした活動を手始めに様々な事業を展開し、積極的にインターアクトクラブを支援してまいります。有意義な「社会奉仕活動」「国際親善活動」のため皆様のご支援とご協力をお願いいたします。



ローターアクト委員会

委員長

本間 長市 (新潟南RC)

ローターアクトクラブは、国際ロータリーが推進し創設されたもので、ロータリークラブにより提唱された18歳から30歳までの青年男女の集まりです。

その目的は、専門知識の開発や地域社会の奉仕活動などを通じて個々の知識や技能を向上させ、地域社会のリーダーとして活躍できる能力を身につけ全世界の人々との、より良い信頼関係を築く機会を提供する事にあります。

元気なローターアクトを継続させる為、アクターの会員拡大に各クラブの皆様のご協力を今後ともよろしく願いします。



ライラ委員会

委員長

尾田 一雄 (新発田城南RC)

ライラとは「ロータリー青少年指導者養成プログラム」と定義されています。プログラムは12～30歳までの男女が対象で所属組織に縛られない自由な参加が可能です。魅力は多様な参加者との出会いの中でリーダーシップや良き市民、人間としての成長を学べ、友達もできるプログラムです。

今年は研修リーダーに安藤頌太郎氏を迎え、19～30歳の研修生を対象に1泊2日の研修を10月14日(土)・15日(日)胎内市の「ロイヤル胎内パークホテル」で計画しております。

どうぞ各クラブのご理解、ご支援をお願いいたします。



青少年交換委員会

委員長

本間 啓介(村上RC)

1年交換

来年度の1年交換は、カナダ、ドイツ、韓国に1人ずつの交換予定です。

例年ですと8月中旬に出発して、翌年7月ごろに帰国します。来年度も同じ予定です。来年度も同じ準備を進めているところです。

田中ガバナー年度で初めて他地区との交流研修旅行をおこないました。研修旅行で学生同士の交流観光を試みたのは2560地区がはじめてです。相手地区のロータリアンや学生から高い評価を頂きましたので、来年度も継続したいと考えています。Rotex との継続したコミュニケーションということも続けていきたいと思えます。

夏期交換

夏期交換は、ドイツと3人の交換予定です。例年ですと夏期研修キャンプと関東研修旅行が予定されていますが、1年交換の関西研修旅行で経験した他地区との交流観光が夏期交換でも出来たらいいと考えています。あとは、日本人学生に外国での危機管理についてしっかり指導しまして送り出したいと思えます。

今後の募集について

青少年交換委員会は行事活動が多く田中ガバナーや新保ガバナーエレクトにお会いする機会が頻繁にあるわけですが、来年度のガバナーの新保ガバナーエレクトから学生の応募を多くしたいとの言葉をたびたびお聞きしております。

そして、具体案を頂きましてそれを実行する事となりました。まず、高等学校の事務職員へのロータリー青少年交換プログラムの説明会を開きます。もう一つ、来年度の初頭に予定されているインターアクト年次総会に学生たちを出席させます。そこでインターアクトのみなさんに青少年交換プログラムの事を知ってもらい参加を募ります。

Rotex との交流

Rotex とは、青少年交換プログラムを経験し留学後、青少年交換学生の留学までの準備や心構え体験談などをお話しただいたり、募集に関して支援してもらったりしております。

そのほかに、受入学生との交流に関してもお手伝いいただいています。Rotex の方々は純粋に恩返しという気持ちで参加いただいています。私たちが青少年交換委員としましては大変ありがたく頼りになる存在です。交換学生は高校生です。私たちが委員とは年齢も離れていますので相談に乗るにしてもRotex は学生たちに近い存在です。なによりも経験者ですので話に真実味があり説得力があります。

そのRotex との交流は委員会活動でも大変重要な事です。国際ロータリー（以下RI という）の指導もあり2015年6月に一般社団法人Rotex を設立しました。

RI における青少年交換プログラムの位置づけ

RI 理事会は、RI の特別プログラムと常設プログラムを採択しています。

常設プログラムとは国際ロータリー理事会がクラブと地区に推奨する体系的な活動で、その枠組みと指針も推奨されたものがある。

RI の常設プログラムは、現在次の6つがあります。

- ・ インターアクト
- ・ ローターアクト
- ・ ロータリー地域社会共同隊 (RCC)
- ・ ロータリー友情交換
- ・ ロータリー青少年指導者養成プログラム (RYLA)
- ・ 青少年交換

私はRI 理事会は青少年交換を活発にやってほしいと言っていると理解しています。

このような大きな使命を当委員会は担っている事を感じて今後も活動していきたいと考えています。この事業継続には、皆様方のご理解とご協力も必要です。どうか、今後ともご支援をいただきますようお願いを申し上げますとともに、各クラブにおかれましてはこのプログラムに積極的にご参加をいただければ幸いです。



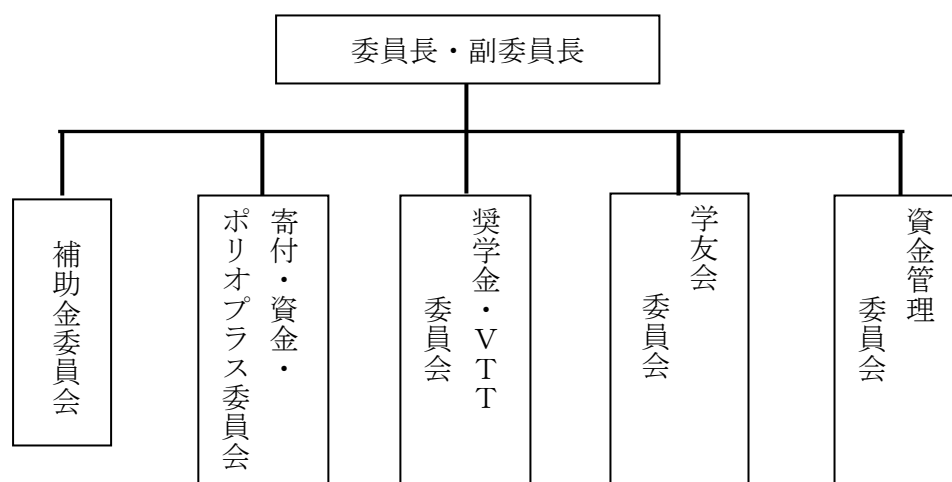


ロータリー財団委員会

委員長・パストガバナー

佐々木 昌敏 (小千谷RC)

2017-18年 新保年度ロータリー財団委員会は、委員長・副委員長のもとに下記5つの委員会で構成されています。1カ月1回以上、委員会を開催するなど活発に活動しています。



1. ロータリー財団の研修充実

とかく財団はむつかしいと言われていました。しかし、財団の理解なくして、奉仕プロジェクトの推進、寄付の増進はできません。

地区の研究だけでなく、分区単位の研修、クラブの卓話にも委員会メンバーが出向いて、応援いたします。声をかけて下さい。

2. ロータリー財団資金の活用

地区補助金、グローバル補助金の特性を理解して、有効活用していただくよう推進して参りたいと考えます。制約はありますが、各クラブの提案には沿えるよう努めて参りたいと思います。

3. ロータリー財団への寄付増進

R財団の意義を周知して、財団への寄付増進をすすめるため、各クラブの会長さん、財団委員長さんをお願いして参ります。

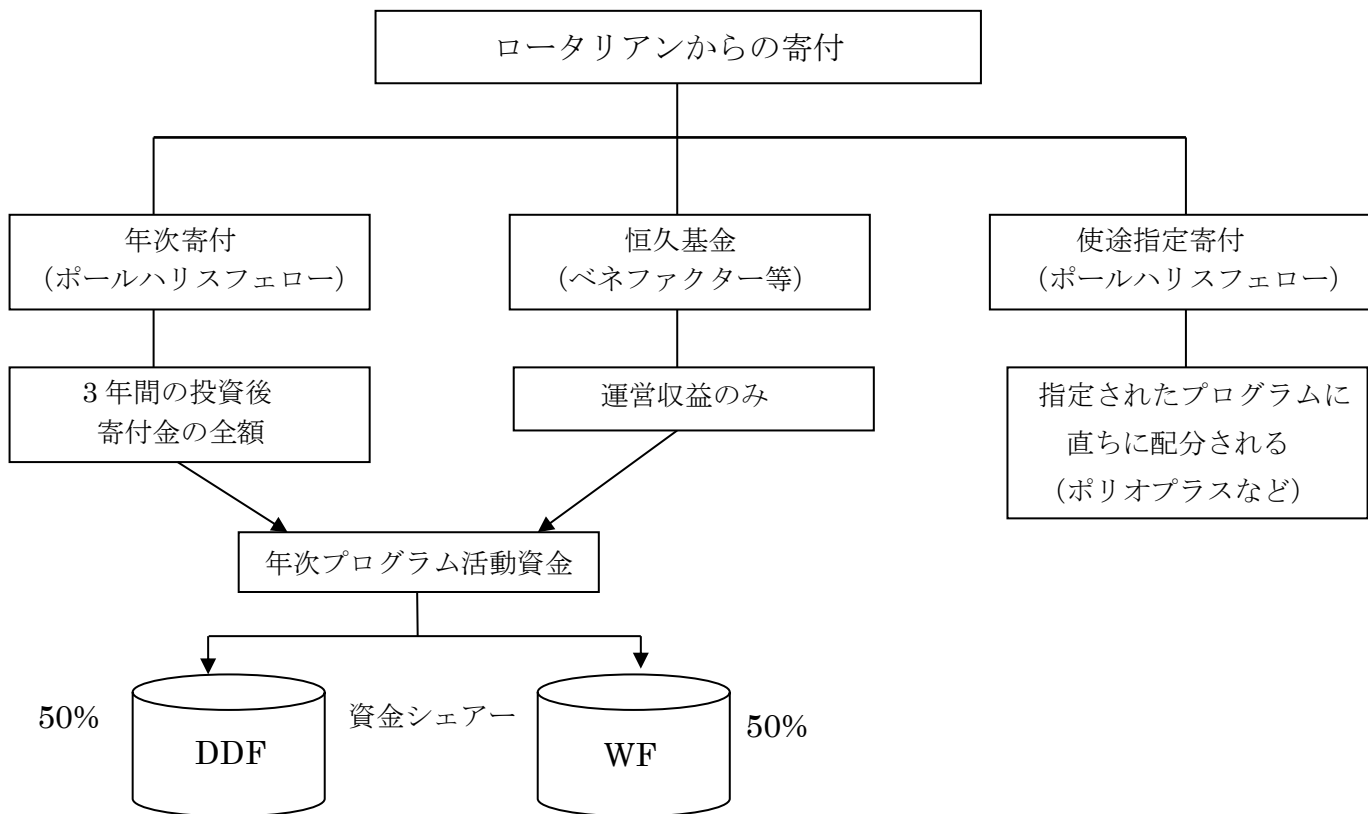
年次基金目標	1人150ドル×会員数
ポリオプラス寄付	1人30ドル×会員数
ベネファクター	10名以上
ポール ハリス フェロー	各クラブより1名純増
ポール ハリス ソサエティ	地区より10名純増

4. ロータリーカードの加入促進

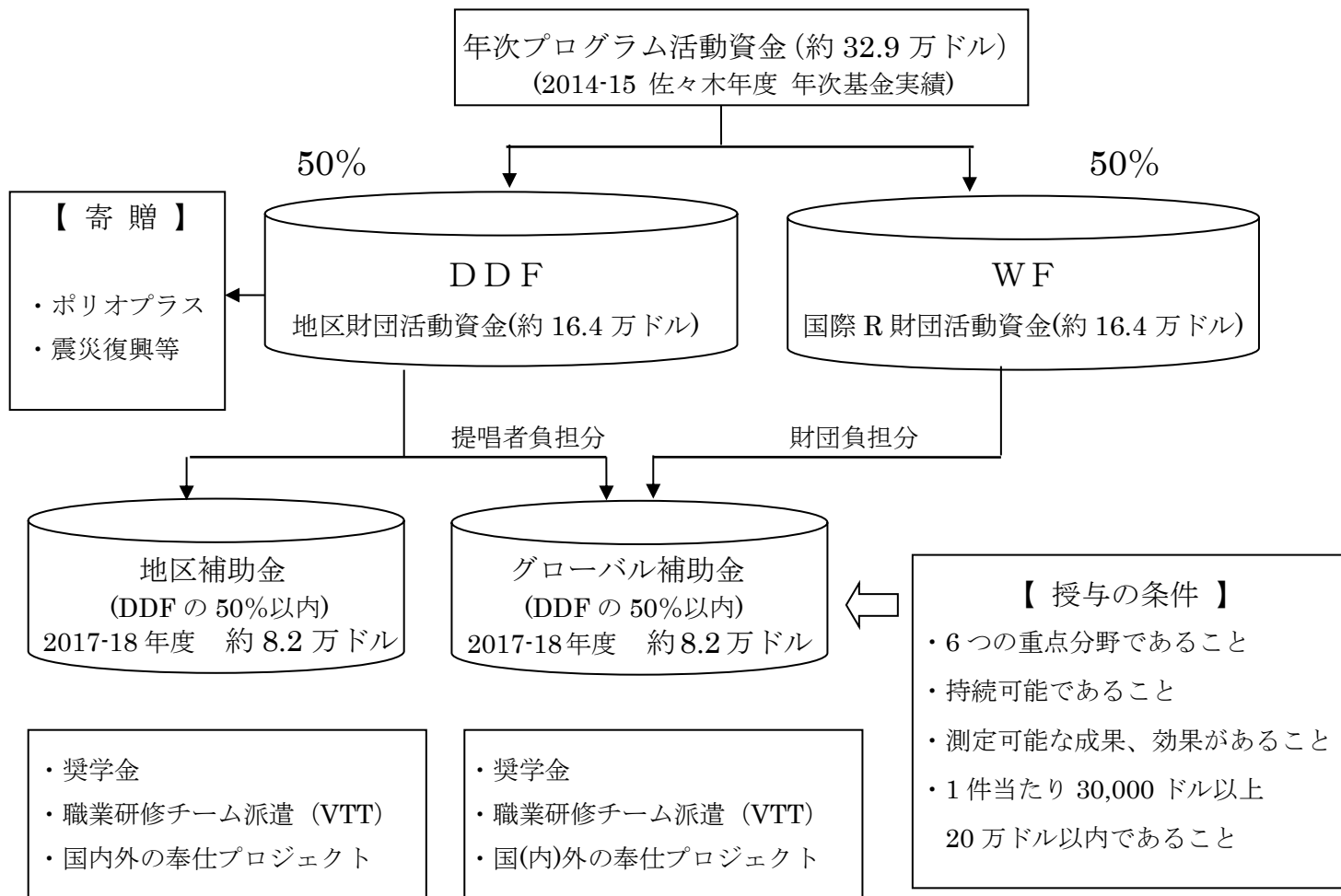
カード利用代金の0.3%は、自動的にポリオ撲滅資金に還元されるので、カード会社と提携しながら、個人カード、法人カードの加入促進をすすめて参ります。

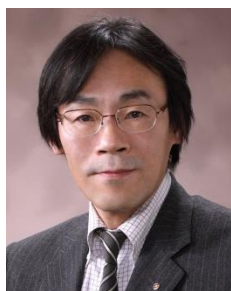
<ロータリー財団の新補助金システム>

1～4年目：山崎年度～田中年度 5年目：新保年度



<2017-18 新保年度の活動資金の配分>





米山記念奨学委員会

委員長

宇尾野 隆 (新潟RC)

○ロータリー米山記念奨学会とは

勉学、研究を志して日本に在留している外国人留学生に対し、日本全国のロータリアンの寄付金を財源として、奨学金を支給し支援する民間の奨学団体です。

○当地区受入れ奨学生

新規 18名 継続 7名 合計 25名

※国籍 10 (中国、モンゴル、メキシコ、ベトナム、アメリカ合衆国、インド、エリトリア、カンボジア、バングラデシュ、マレーシア)

※所属学校 11 (新潟大学、長岡技術科学大学、敬和学園大学、国際大学、新潟工科大学、長岡大学、事業創造大学院大学、上越教育大学、新潟医療福祉大学、新潟産業大学、長岡造形大学)

※新規 18名の内、1名は当地区で初めて採用した海外応募者対象奨学生です。

○活動方針

10月の米山月間と諸行事・活動を通して、より多くの地区内ロータリアンに米山事業の意義と活用法について啓蒙し推進を図ります。

また、本年度は受け入れ奨学生が21名から25名へと4名増になっています。

世話クラブが奨学生の支援をしやすいように、そして奨学生がロータリー活動に参加し相互の理解と交流が図れますようにお手伝いをさせていただきたいと思っております。

○小委員会活動内容

・寄付増進委員会

2回の米山委員長セミナーやクラブへの卓話訪問を通して、事業の意義を啓発し、寄付増進を図ります。

・奨学生選考委員会

大学説明会・奨学生選考会・奨学生オリエンテーション・カウンセラー研修会を開催します。

・奨学生・学友委員会

奨学生・世話クラブ・カウンセラーの連絡調整、並びに奨学生OB会である学友会運営のサポートをします。

米山記念奨学委員会 年間スケジュール

年月日	行事名	出席対象者	
2017年	8月3日	大学担当者向け米山制度説明会	県内各大学担当者
	9月3-4日	米山奨学生親睦交流会	米山奨学生, カウンセラー, 米山学友会
	10月7日	第1回米山記念奨学委員長セミナー	クラブ米山奨学委員長
	11月25日	米山奨学生学友会総会	2560地区米山学友会, 米山奨学生, カウンセラー
	11月25日	面接官オリエンテーション	米山奨学生面接官
2018年	1月13日	2018学年度米山奨学生選考会	米山奨学生面接官
	1月27日	第2回米山記念奨学委員長セミナー	現・次クラブ米山奨学委員長
	3月3日	米山奨学生終了式・歓送会	米山奨学生・担当教員, カウンセラー, クラブ米山奨学委員長, 米山学友会理事
	3月31日	米山カウンセラー研修会	カウンセラー
	4月21日	米山奨学生オリエンテーション	米山奨学生・担当教員, カウンセラー, 米山学友会理事



ロータリー地域協働ネットワークセンター活動方針

センター長

鈴木 重壺 (長岡RC)

I. 基本方針

ロータリアンはもとより、ロータリー家族と共に「地域と協働するロータリー」を具現するため、協働ネットワークセンターを核に地区一体となって活動を推進するとともに、地域の発展に欠かせない防減災意識を高めるため、地区ガバナースタッフと地区内全てのロータリークラブが連携した活動を進めます。

また、他地域での災害復興に資する支援に対しても、ロータリーの理念を基に速やかな対応を目指します。

II. センターの活動目的

1. 活動を通じて地域に貢献

：協力団体と連携を深め、会員相互が地域内での防減災への認識を高めるとともに、広く県民にロータリーへの理解を深めていただく事を通じて、会員増強への一助とします。

2. 地区内ロータリアンの互助力・共助力を高める

：センターでの活動を通じて会員間のより強固な絆づくりを進めます。

3. 危機管理意識の啓発と行動力の強化

：防減災セミナーを開催し、いざの備えと安全の確保の大切さを周知します。

III. 取り組みの概要

1. 協働団体との連携強化

関係団体との連携を進め、互尊互助の信頼関係を深めます。

2. 緊急時対応の整備

会員の理解と協力の下に、災害への迅速な支援に備えて以下の整備を進めます。

- ★資機材の提供
- ★人的資源の確保
- ★経済的な支援

3. 防減災セミナーの開催…平成29年8月5日(土)

目的：地域内関係団体との連携強化と会員の危機管理意識の向上を図ります。

会場：長岡市震災アーカイブセンター (まちなかキャンパス2階)

参加対象者：ガバナー、地区幹事、地区財務委員、ガバナー補佐、新保年度センターの委員クラブの登録者(ネットワーク緊急連絡網に登録された担当者又は代理者)



第2560地区 2016-17年度 5月末 会員数および出席報告

R C	例会数	出席率	会員数			
			7月1日現在	5月末会員数	うち女性	増減
第1分区(9クラブ)	84.68	371	371	36	0	
新発田	4	96.07	97	97	0	
村上	3	71.93	36	39	9	
水原	4	82.11	25	26	0	
中条	4	89.71	35	34	3	
新発田城南	3	93.64	40	39	4	
豊栄	4	75.92	27	27	3	
新発田中央	4	84.32	48	48	5	
中条胎内	3	89.90	33	33	6	
村上岩船	4	78.50	30	28	6	
第2分区(9クラブ)	85.52	440	460	20	20	
新潟	4	84.08	92	98	0	
新潟東	3	87.95	62	62	8	
新潟南	3	81.03	97	103	2	
佐渡	4	85.70	7	7	0	
新潟西	3	81.78	37	41	1	
佐渡南	4	90.03	42	42	4	
新潟北	4	79.57	42	44	0	
新潟中央	4	86.75	25	25	0	
新潟万代	3	92.79	36	38	5	
第3分区(6クラブ)	75.38	131	124	8	-7	
新津	4	72.23	19	18	0	
村松	5	98.18	10	11	0	
五泉	3	79.16	18	17	3	
白根	3	83.76	42	40	3	
新津中央	5	76.44	31	28	1	
阿賀野川ライン	4	42.50	11	10	1	
第4分区(11クラブ)	79.97	362	370	22	8	
三条	4	92.85	55	58	0	
燕	3	71.87	33	33	1	
加茂	3	93.10	28	29	4	
三条南	3	90.94	51	48	2	
分水	4	71.77	32	32	3	
見附	3	70.00	20	20	1	
吉田	3	89.89	32	33	2	
三条北	4	87.50	65	66	3	
巻	4	80.90	9	13	0	
田上あじさい	3	57.10	6	7	1	
三条東	3	73.73	31	31	5	

R C	例会数	出席率	会員数			
			7月1日現在	5月末会員数	うち女性	増減
第5分区(7クラブ)	86.77	313	326	25	13	
長岡	4	87.50	40	44	1	
柏崎	4	81.43	42	46	0	
長岡東	4	85.30	69	69	6	
柏崎東	4	96.29	53	51	4	
栃尾	4	85.90	21	21	0	
長岡西	3	80.95	52	60	6	
柏崎中央	4	90.00	36	35	8	
第6分区(6クラブ)	85.05	156	162	12	6	
十日町	3	97.14	34	36	3	
小千谷	3	83.49	40	40	5	
雪国魚沼	3	71.80	24	26	3	
十日町北	3	96.82	23	24	0	
津南	4	83.04	27	28	1	
越後魚沼	5	78.00	8	8	0	
第7分区(8クラブ)	84.42	324	326	27	2	
高田	4	98.15	61	66	0	
直江津	4	87.45	51	50	3	
新井	4	73.69	32	32	3	
糸魚川	3	97.56	42	41	3	
高田東	4	79.61	40	38	2	
糸魚川中央	3	71.72	36	33	0	
頸北	4	86.53	15	15	1	
越後春日山	3	80.67	47	51	15	

クラブ数	56	クラブ
7月1日 会員数	2,097	人
5月末 会員数	2,139	人
女性会員数	150	人
純増減会員数	42	人
当月平均出席率	83.16	%



ハイライトよねやま 2017

2017年6月12日発行
公益財団法人ロータリー米山記念奨学会

寄付金速報 — 今年度の送金はお早めをお願いします —

5月までの寄付金は前年同期と比べて8.7%減（普通寄付金0.5%増、特別寄付金12.8%減）、約1億2千万円の減少となりました。累計額は依然として前年度より下回っていますが、5月単月では前年度に比べて約300万円増加しました。

2016-17年度も残り半月です。普通寄付金を上期・下期ともにまだご送金いただいていないクラブが36クラブ（6月8日現在）あります。今年度の寄付実績は6月30日（金）までに当会の銀行口座に入金記帳された分までとなります。普通寄付金・特別寄付金の送金は、日程に余裕を持ってお送りください。ご協力よろしくお願いたします。

第2回次期地区米山奨学委員長セミナーを開催

2017-18年度地区米山奨学委員長対象の第2回セミナーを5月31日、都内で開催しました。今回のセミナーは『どんな奨学生を採用し、どのように育てるか』をメインテーマに、安増惇夫理事がファシリテーターとなって、全体会議の形式で進められました。サブテーマ毎に、独自の取り組みを行う地区からの事例発表（下記参照）や意見交換が行われました。



- 三者懇談会で奨学生、カウンセラー、指導教員の理解促進（高橋博文 第2580地区次期米山記念奨学委員長）
- 「大学の理解促進」大学説明会で意見交換会（田中隆弥 第2660地区次期米山記念奨学委員長）
- 「カウンセラーの育成」ハラスメント研修の義務づけ（秋吉 実 第2720地区米山記念奨学委員長）
- 「寄付増進」寄付者の裾野を広げる（磯田隆雄 第2650地区次期米山記念奨学委員長）

今回は初の試みとして、グループディスカッションを設けず、すべて全体研修で進める形を取りました。「全員が同じ事柄について議論できて良かった」という意見がある一方、時間の制限から十分な発言ができたとは言えず、気軽に発言できるグループディスカッションを望む声を多くいただきました。アンケートのご意見を参考に、今後のセミナー形式や内容を検討してまいります。

理事会開催報告 — 来年の採用数は40人増の820人に —



6月6日に第17回理事会が開催され、全国から28人の理事と監事1人が出席しました。

主な議題として、2017学年度採用の件、2018学年度奨学生採用数と募集要項の件、2017年度の事業計画案および収支予算案の件、2017年度資産運用方針の件などが審議されました。すべての議案は原案通り承認され、50周年記念の特別事業費を含む収支予算、また、2018学年度の奨学生採用数は前年度比40人（枠）増の820人（枠）とすること、2018学年度も海外応募者対象奨学金の募集採用を行うことなどが決定しました。

モンゴル米山学友会総会に日本から 80 人が参加

モンゴル米山学友会の総会が5月14日、ウランバートル市内で開かれ、学友40人、来賓9人、日本からは当会の小沢理事長を含めロータリアンが約80人参加する盛会となりました。



総会では、年間の活動報告につづき、同学友会の「2016年度最優秀会員賞」にトゥメンデルゲル・バヤンバットさんが表彰されました。また、役員の変更が行われ、新会長にはシルネン・ブヤンジャルガルさん、幹事にトゥメンデルゲルさん、ほか8人の理事が就任しました。

ブヤンジャルガル新会長は、「モンゴルのロータリークラブにわれわれ学友会の活動をもっとPRし、日本のクラブとの懸け橋になって、米山奨学金の情報を広く提供していきたい」と抱負を語り、学友会の発展を誓いました。また、今回の訪問中、当会小沢一彦理事長がモンゴル国大統領からナイラムダル（友好）勲章を授与され、「この名誉ある叙勲は私個人ではなく、日本のロータリアンが支えるロータリー米山記念奨学事業へいただいたものだと思っている」と、感謝の言葉を述べました。

米山翁の思いを伝える植樹に奨学生らが参加—青森RC—

「日本のロータリーの父」であり「奉仕の人」と呼ばれる米山梅吉翁は、晩年、三井報恩会を設立し、初代理事長として多くの社会貢献事業に奔走します。特に思いを寄せたのは、当時、社会から疎外されていたハンセン病の患者たちでした。自ら調達した見舞い品を携えて、米山翁は青森から沖縄まで、当時の療養所すべてを訪れたと伝えられています。

青森市にある「国立療養所 松丘保養園」も、米山翁が三井報恩会を通じて多大な支援をしたハンセン病療養施設の一つ。

青森RC（第2830地区）では米山翁の思いを語り継ごうと、3年前から同園内の緑化推進に協力し、植樹事業を始めました。6月3日に実施された第4回植樹活動には県内から約90人が参加。青森RC会員のほか、町内会有志や同地区ローターアクター、米山奨学生5人とその友人など、さまざまな世代・国籍の人が集い、ハナカイドウ、百日紅の木を園内に植樹し、昨年植えた樹木の周りの除草作業に汗を流しました。これが初めての奉仕活動という米山奨学生のシーズワン、アピラーパーさん（タイ/2017-18/青森RC）は、「活動を通じて、いろいろな人と交流ができて本当に楽しかった。自分が植えた木がどのように成長しているか見たいので、来年もぜひ参加したい」と、語りました。



感謝 in 熊本 にぜひご参加ください！

財団設立50周年を記念し、世界の米山学友が主催するイベント、「感謝 in 熊本」が開催されます。米山奨学生、国内外の学友はもちろん、ロータリアンやご家族の参加も歓迎いたします。ふるってご参加ください（要事前登録）

日時：2017年8月26日（土）17:00～21:00（16:00 受付開始）

会場：ANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイ

登録費：ロータリアン：10,000円、米山学友・奨学生：5,000円、友人・ご家族：6,000円

詳細は当会HPをご覧ください

平成 29 年 6 月 23 日

ガバナーエレクト各位

ロータリー文庫運営委員会
委員長 佐久間崇源

拝 啓

梅雨の候、貴ガバナーエレクトはじめスタッフの皆様には益々ご健勝にてご活躍の事とお慶び申し上げます。また常々文庫へのご協力を心から感謝致しております。
このたびは、下記 10 点をご紹介しますので「ガバナー月信」にご掲載下さるようお願い致します。
なお今後ともご活躍とご成功を心からお祈り致しております。

敬 具

追 伸 下記ご掲載の場合は [申込先] もご記載下さるようお願い致します。

文 庫 通 信 (358号)

<http://www.rotary-bunko.gr.jp>

「ロータリー文庫」は日本ロータリー 50 周年記念事業の一つとして 1970 年に創立された皆様の資料室です。
ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、約 2 万 4 千点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページで PDF もご利用いただけます。
クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。 以下資料のご紹介を致します。

最近の文献から

- ◎ 「ロータリー概論－ロータリー史からみた奉仕の理想」 あわじ中央 R.C. 2002 167p
- ◎ 「ロータリーエッセイ・英米史の中でのポール P.ハリス考」 矢作好英 2009 27p
- ◎ 「ロータリーの基本～研修の手引き」 本田博己 2012 40p
- ◎ 「全く私(わたくし)的なロータリーの記録」 井原俊彦 [2015] 83p
- ◎ 「職業奉仕を学ぶ」 D.2680 [2015] 108p
- ◎ 「クラブ会長スピーチ集」 D.2650 2016 94p
- ◎ 『ロータリーの真髄』～変えてはいけないロータリー 深川純一 D.2510 IM 実行委員会 2017 31p
[上記申込先：ロータリー文庫]
- ◎ 「世界でよいことをしよう：ロータリー財団百年誌」
デイビッド C.フォワード R.I. 2015 296p
[申込先：国際ロータリー日本事務局 FAX(03)5439-0405]
- ◎ 「ロータリー入門書 2017～2018 年度版」 前原勝樹・重田政信・渡辺好政 2017 227p [申込先：北斗事業出版 TEL(03)5207-6681]
- ◎ 「ロータリー財団ハンドブック」 D.2750 2017 112p
[申込先：D.2750 FAX(03)5472-2750]

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園 2-6-15 黒龍芝公園ビル 3 階
TEL (03)3433-6456・FAX (03)3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp>
開館＝午前 10 時～午後 5 時 休館＝土・日・祝祭日





ROTARY
INTERNATIONAL
DISTRICT 2560

国際ロータリー第 2560 地区 2017-18 年度ガバナー事務所

〒951-8053 新潟市中央区川端町 6-53 ホテルオークラ新潟
TEL: 025-222-2561 FAX: 025-222-2565 E-mail: k.shinbo@rid2560niigata.jp
ホームページ URL <http://www.rid2560niigata.jp/>